

戦争を繰り返さない

＝この悲しみを二度と繰り返してはならない＝

まず幼い肉体が火に溶けるジューという音がしました。
それからまばゆいほどの炎がさっと舞い立ちました。
真っ赤な夕日のような炎は、
直立不動の少年のまだあどけない頬をあかくてらしました。
その時です、炎を食い入るように見つめる少年の唇に
血がにじんでいるのに気がついたのは、
少年があまりにきつく唇をかみしめているため、
唇の血は流れることもなく、
ただ少年の下唇に赤くにじんでいました。
夕日のような炎が静まると、少年はくるときびすを返し、
沈黙のまま焼き場を去っていきました。

— ジョー・オダネル写真集“焼き場に立つ少年”より —



亡くなった妹を背負い、

歯を食いしばり必死に涙をこらえている少年

撮影されたのは被爆後の長崎。

まだ小学生である少年は、赤ん坊を背負い、裸足で一人焼き場に歩いてきたのだ。背負っている自分の弟妹である赤ん坊を火葬するために。

少年は、あの姿勢のまま、焼き場の前で5～10分たらずんでいたという。
少年のまっすぐ向けられた視線の先には、焼き場の炎が映っているのだろうか。
その炎の中に少年は何を見ているのだろうか。かたく、かたく少年は口を結んでいる。声をあげて泣き出したい衝動を、必死で少年はこらえている。

父は戦場に行ったのだろうか。母は原爆で亡くなったのだろうか。他に誰もいなかったのだろうか。
あの小さい体で、運命のすべてを一身に背負い、気をつけの姿勢のまま屹立している少年……。

私たちは、あの少年に対し、どんな言葉を投げかけられるだろうか。
絶望と悲愴さのただなかで、全身全霊で運命をこらえながら必死で立ちつくそうとする小さな、本当に小さな存在……。私たちは、この子たちに何を語れるだろうか？

いくら薄めても 毒は毒

水俣病の悲劇を繰り返すのか！

放射能汚染水の海洋放出は、人類に対する緩慢な殺人行為だ。

メチル水銀を含む工場排水を希釈して捨てても、生物濃縮で海や川に流したメチル水銀が100万倍の濃度になって、自然や人体に未曾有の被害をもたらしたあの水俣病の教訓を顧みず、同じ過ちをまた繰り返すのか。

海洋放出された放射性物質が、プランクトンや魚を通じ生物濃縮され、人体に混入する事は避けられない宿命だ。これは風評被害ではなく人命と環境を蝕む深刻な実害をもたらす。

トリチウムの半減期は約12年で、十分に下がるまで100年以上かかる。ベータ線によって細胞が損傷され、遺伝子の組みかえや放射線による長期にわたる生態系や環境への影響が懸念される。

福島原発の汚染水は他の通常運転の原発冷却水と異なり、原発事故で炉心溶融した燃料デブリに触れることにより発生した汚染水で、高濃度のトリチウムや炭素14、ストロンチウム90など、完全に処理しきれない60種以上の放射性核種が含まれ、生態系に大きな影響を及ぼす可能性は否定できない。

IAEAは、このような国際的な科学的議論には一切触れようとしないまま、海洋放出にお墨付きを与えている。

報告書には、放射能が生態系に与える生物連鎖や食物連鎖などに及ぼす数量について全く触れられておらず、安全性を重視した科学的な透明性のある見解とは言い切れない。

いくら安全だと言っても、IAEAは原発推進を目的とした御用機関に過ぎない。海は広く、境界もない。生態系への影響が明らかになっていない段階での、放射能汚染水の海洋投棄は許されない。タンクに100年間保存すればトリチウム濃度は0.35%まで減少し、誰にも迷惑は掛けることはない。

放射能汚染水は国と東電が責任を持って、原発敷地内に永久保存しろ！

＝社民党福島県連合のホームページ＝

最新の県連合の動きや原発情報、社民党 OBG ニュースなども閲覧することができます。
党員の皆さんの活用をお願いします <http://www.sdp.or.jp/fukushima/>